

古典B受講者へ（人文33・自然）

- **「小野篁、広才のこと」に出てくる助動詞を中心に解説しています。このスライドを参考に本文の現代語訳を完成させてください。**

助動詞の学習①

～小野篁、広才のこと～

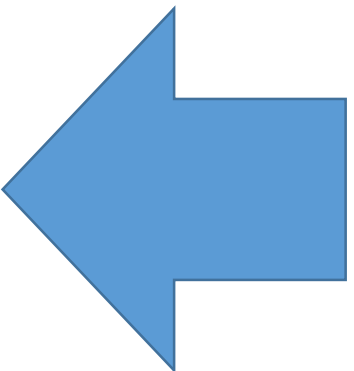
助動詞とは・・・

動詞などの後につくことで、時制

などの文法的機能を表す言葉。

一つの助動詞で**複数の意味**を持つ

ていることが多い。



古文を読み解く上で必ず必要！

助動詞「けり」

文章内でもっともよく見る助動詞。

意味

過去（伝聞過去・間接経験の過去）

「**した。・したそうだ。**」

詠嘆

「**しだなあ。・しことだ。**」

「けり」が「詠嘆」の意味になるパターン。

①和歌中の「けり」

②会話文中の「けり」

教科書P二八〇の活用表を覚えること！

助動詞「む」

理解につまづく助動詞その1。

意味

推量

「〜だろう。」

意志

「〜しよう。」

勧誘（適当）

「〜がよい。・〜しませんか。」

仮定

「〜としたら。」

婉曲

「〜ような。」

助動詞「む」②

「む」の意味の見分け方。

① 「む」が文中・文末どちらにあるか
確認。

② 文末にある場合。
推量・意志・勧誘（適當）の
いずれか。

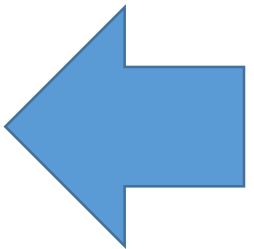
推量

主語が三人称ならば推量の意味をとる。

（例）彼、行か**む**。

「彼は、行く**だらう**。」

しかし・・・



古文はそもそも、主語が省略されることが多い・・・。

どうすれば・・・

助動詞「む」③

推量以外の見分け方から覚える。

意志

- ・主語が二人称なら意志の意味をとる。

(例) 我、行か**む**。

「私は、行**こう**。」

- ・「む」の後に引用の格助詞「と・とて」が続く時も意志の意味をとる。

(例) かひもちひ召させ**ん**(**む**)。「とて

「ぼたもちを**ごちそうしよう**。」

と言って」

このパターンが覚え
やすく、よく見かける。

勧誘

- ・「こそめ」の形なら勧誘の意味をとる。

(例) 命長引くと**こそ**思ひ念**ぜめ**。

「命が長引くようにと心の中で祈る
のがよい。」

助動詞「む」④

文中の「む」に注目するパターン

仮定

「む」の後に助詞が来たら仮定の意味をとる。

(例) 花の咲かむ格助詞を見る。

「花が咲いたとしたら、それを見る。」

婉曲

「む」の後に名詞が来たら婉曲の意味をとる。

(例) 花の咲かむ名詞時。

「花が咲くような時。」

助動詞「む」のまとめ

① 「む」の意味は文中にあるか、文末にあるかで判断する。

② 文末にある「む」は推量・意志・勧誘
文中にあるものは仮定・婉曲

③ 教科書P二八〇の活用表を覚えること。

助動詞「らむ」

現在の時制に関して用いる。

意味

現在推量

「（今頃は）ゝいるだろう。」

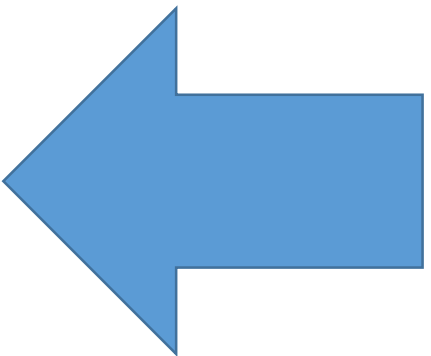
現在の伝聞

（人からきいたこと。）
「ゝいるとかいう。」

現在の婉曲

（人からきいたこと。）
「ゝいるような。」

「む」は未来の時制、
「らむ」は現在の時制



推量に関する助動詞は数が多いので、
それぞれの違いを理解することが
大切。

助動詞「らむ」②

「らむ」の意味の見分け方

現在推量

- ・「らむ」が文末にあれば現在推量

〔例〕風吹けば沖つ白波たつた山

夜半にや君がひとり越ゆらむ

「風が吹くと沖の白波が立つ。竜田山を

この夜中に一人で越えているの**だろう**か。」

現在の伝聞・婉曲

- ・「らむ」が文中にあれば

現在の伝聞・婉曲

〔例〕鸚鵡、いとあはれなり。

人のいふ**らむ**言をまねぶ**らむ**よ。

「オウムは、とても趣深い。人が話す**ような**

言葉をまねする**とかいう**。」

（基本は現在の伝聞で訳してみる。

違和感があれば婉曲に直す。）

助動詞「じ」

「負けじ」の意味が分かれば覚えやすい。

意味

打消意志

「〜ないつもりだ。」

打消推量

「〜ないだろう。」

意味の見分け方

打消意志

- ・主語が一人称なら打消意志の意味をとる。

（例）（我）京にはあ**らじ**。

「（私は）都には**ないつもりだ**。」

打消推量

- ・打消意志にあてはまらなければ打消推量。

（例）月ばかりおもしろきものはあ**らじ**。

「月ほど趣深いものは

ない**だろう**。」